

【国土審議会第7回計画部会資料4(抜粋)】

人口減少下の望ましい国土構造に係る検討の論点(抜粋)

1. これまでの我が国の国土構造はどのように形成されてきたか(略)
2. 人口減少下の成熟社会にふさわしい国土構造は、どのような観点から検討を進めていくべきか
 - (1) 東アジア経済の急速な成長に国土構造としてどのように対応すべきか。(略)
 - (2) 国土審議会調査改革部会報告「国土の総合的点検」において提案された「二層の広域圏」を国土構造としてどのように考えるか。

【論点】

- ・「地域ブロック」が担うべき機能・役割についてどう考えるか。
- ・ブロック圏域の牽引役として、人口・産業の一定の集積があり、これまでの既存ストックが充実している地方中枢・中核都市の戦略的な活用が考えられないか。
- ・「生活圏域」が担うべき機能・役割についてどう考えるか。そのとき、人々の実際の生活の実態をどのように捉えるか。

【検討の視点】

- ・平成16年5月にまとめられた国土審議会調査改革部会報告「国土の総合的点検」においては、生活面では複数の市町村からなる「生活圏域」、経済面では都府県を越える規模からなる「地域ブロック」の二層の「広域圏」を今後の国土を考える際の地理的まとまりとすることを提案している。
 - ・地域ブロックの中心都市となる地方中枢・中核都市においては、一定程度の人口・諸機能の集積が見られるようになっている。
 - ・地域ブロック相互間の人流の推移を見ると、最近では地域ブロック相互間の人流の動きが増加する傾向にある。
 - ・国際交流施設・機能は、いずれの地域ブロックにおいても概ね整備が進んでいる。
 - ・国土審議会調査改革部会報告「国土の総合的点検」においては、「生活圏域」は、生活関連サービスや地域社会の活力の維持・向上等のため政策的に目指していくべき複数市町村からなる圏域として、人口規模で30万人前後、時間距離で1時間前後のまとまりを目安とすることを提案している。
- (3) 人口の大幅な減少と急速な高齢化を国土構造上どのように捉えるか。(略)
 - (4) 東京一極集中問題についてどのように評価するか。(略)
 - (5) 予測される大規模地震を国土構造上どのように考えるか。(略)